

## 東京都歴史教育研究会

### 令和7年度 春季史跡見学会 見どころ案内

※太字は山川『日本史用語集』収録の用語

#### ○ 日枝神社

1478（文明10）年に**太田道灌**が江戸に築城する際に、鎮護の神として江戸氏が祀った川越山王社を勧請（遷し祀ること）したのが始まり。その後、江戸城内に鎮護神として祀られたが、1590（天正18）年、**徳川家康**が江戸城に入り、城域の拡張を行なった際、**紅葉山**へ遷され、以後、幕府直轄の神社となった。1607（慶長12）年、さらに西貝塚（千代田区隼町）へ遷され、三代将軍**徳川家光**以後は朱印領（幕府や大名から神社や寺院の領地として安堵された土地）六百石を寄せられた。1657（明暦3年）年の**明暦の大火**で社殿が焼失したが、時の将軍**徳川家綱**により1659（万治2年）年に現在地に荘重な社殿が落成し、遷宮式が行われた。こうして、江戸城の南西の方角、すなわち裏鬼門の鬼門封じの社となった。以後、歴代将軍の崇敬は篤く、正月と6月の15日には必ず幣帛（神前に供える物）が奉られた。毎年6月には、神田祭・根津祭とともに日本三大祭の一つとして数えられる「山王祭」が行なわれている。1869（明治2年）社名を日枝神社と改め、社宝に国宝の則宗銘太刀、重要文化財の刀剣十四口（徳川歴代将軍奉納）などがある。地元の人からは、「山王さん」と呼ばれ親しまれている。東京10社のひとつ。

#### ○ 豊川稲荷東京別院

愛知県にある豊川稲荷妙巖寺の別院であり、**大岡忠相**が屋敷内に稲荷を祀ったのが始まり。1887（明治20）年に現在の場所に移転して東京別院となった。曹洞宗の寺だが七福神も祀られ、場所がら芸能関係の参拝者も多かった。豊川稲荷を信仰した人物としては、**今川義元**、**織田信長**、**豊臣秀吉**、**徳川家康**、**渡辺華山**などがいる。江戸時代には、庶民の間で商売繁盛、家内安全、福德開運の神として全国に信仰が広まった。

#### ○ 高橋是清記念公園

明治後期の金融界の重鎮であり、大正から昭和初期まで首相・大蔵大臣をつとめた**高橋是清**の邸宅跡地にある公園。なお、邸宅は現在、江戸東京たてもの園内に移築されている。

#### ○ 高橋是清

現在の東京都港区で幕府絵師の家に生まれ、間もなく仙台藩足軽・高橋家に養子に出された。イギリス人宅で働きながら英語を習い、14才で藩の留学生として渡米するも、騙されて奴隸として売られ、奉公をさせられた。苦労の末帰国し、一時芸者の家に居候した。やがて教員を経て**農商務省**で活躍するが、騙されてペルーに赴き、銀山経営に関わって全

財産を失う。日本銀行に入って副総裁に昇進すると、日露戦争の戦費調達に命を懸けて米英に渡り、困難な外債募集を成功させて戦勝に貢献した。日銀総裁を務めた後、首相を一回、大蔵大臣を七回努め、金融恐慌や世界恐慌による大混乱をモラトリアム政策など卓越した手腕で切り抜けて日本の財政を支えた。ふくよかな容貌と信頼感から「ダルマさん」と呼ばれ、国民に親しまれた。岡田啓介内閣の蔵相として陸軍の予算要求を「非常識で言語道断」と厳しくはねつけたことから陸軍の恨みをかい、二・二六事件で陸軍青年将校に襲撃されて即死した（享年 81 歳）。昭和天皇が「朕が股肱（ここう）の老臣を殺戮す。何の赦すべきものありや」と激怒し、二・二六事件は鎮圧の方向に決した。

#### ○ 乃木神社

1912（明治 45）年の明治天皇崩御に殉じた乃木希典と妻・静子夫妻の自宅跡に隣接して創建された。

#### ○ 乃木希典

明治時代の陸軍軍人。1849（嘉永 2）年に長州藩士の子として生まれる。幕末には奇兵隊に合して幕府軍と戦い、明治維新後は 1877（明治 10）年の西南戦争に従軍した。1894（明治 27）年、日清戦争に従軍し、歩兵第一旅団長として旅順を攻略した。1904（明治 37）年、日露戦争では第三軍司令官として旅順攻撃を指揮するも、多くの将兵を失った。このとき、勝典・保典の二子も戦死している。戦後は学習院院長に着任した。1912（大正元）年 9 月 13 日、明治天皇大喪の日に東京赤坂新坂町の自邸で妻静子とともに殉死した（享年 64 歳）。「殉死」は世界的話題となり、日露戦争後の姿は、戦争の悲運を象徴する将として国民の敬慕をうけ、「聖雄」「軍神」としてかたりつがれた。

#### ○ 虎の門事件

関東大震災から 4 カ月後の 1923（大正 12）年 12 月、帝国議会の開院式に臨席する摂政宮裕仁親王（のちの昭和天皇）が、無政府主義者の難波大助に狙撃された暗殺未遂事件。難波大助（当時 24 歳）は狙撃後に「革命万歳」と連呼しながら車を追いかけ、警官に取り押さえられた。翌年、難波は死刑判決を受けたとき、「日本共産党万歳、ソビエト共和国万歳」と叫んだという。

#### ○ 領土・主権展示館

東京の虎ノ門にある国立の展示施設であり、内閣官房領土・主権対策企画調整室が運営を行っている。我が国の領土・主権、特に北方領土・竹島・尖閣諸島に関する事実や日本の立場に関する正確な理解を国内外に浸透させていくための発信拠点として 2018（平成 30）年 1 月に開館し、2020 年（令和 2）年に虎ノ門に移転した。2025（令和 7）年 4 月にリニューアルオープン。

### ○ 江藤新平

天保5年(1834)、佐賀藩下級藩士の長男として出生した。16歳で藩校弘道館に入学して勉学に励んだ。幕末は、副島種臣の兄で、尊王攘夷論を唱えた「佐賀の吉田松陰」こと枝吉神陽に傾倒し、神陽が結成した「義祭同盟」に、大隈重信、副島種臣、大木喬任らとともに参加した。江藤は、初代司法卿を歴任するなど明治政府の基礎を固め、「近代日本司法の父」ともいわれる。しかし、征韓論をきっかけに政府内での対立から職を辞し、最後には明治政府に不満を持つ旧藩士とともに、明治7年(1874)に佐賀の乱を起こし、処刑された。

### ○ 江藤新平遭難の碑

遭難事件が起きたのは明治2年(1869)の12月20日のことで、この日、江藤は赤坂葵坂にあった佐賀藩邸(現在の港区虎ノ門二丁目2番一帯)に知人を訪ねていた。知人との面談が終わり、駕籠で藩邸から出た直後、暴漢に襲われた。幸いにも、江藤は藩邸前の外堀に飛び込み、また急を聞きつけた藩邸の人びとが駆けつけたため、難を逃れた。碑が建てられたのは、大正5年(1916)6月で、実際の遭難事件から47年後のことである。江藤は、明治22年(1889)の大日本帝国憲法発布による大赦令公布により佐賀の乱での賊名を解かれ、さらに大正5年4月に正四位に叙されて名誉回復した。その2か月後である同年6月に、顕彰のために石碑建立がなされた。

### ○ 東京放送局跡(NHK放送博物館)

1925(大正14)、東京放送局(JOAK)の局舎が落成し、ラジオ放送が始まった。アナウンサーは、JOAKを「ジェーイ、オーウ、エーイ、ケーイ」と遠くに呼びかけるように読み上げた。場所は上野などほかにも候補があったが、広く電波を送信できる高台であることなどから愛宕山に決定した。開局後はさまざまな放送が流され、1936年(昭和11年)の二・二六事件で青年将校らに投降を呼びかける放送もラジオで流された。1939(昭和14)年、千代田区内幸町に東京放送会館が完成し、愛宕山の東京放送局はその役割を終えた。その後、1956(昭和31)年から世界初の放送博物館として開館した。2016(平成28)年にリニューアルオープン。

### ○ 愛宕神社

1603(慶長8)年、江戸に幕府を開いた徳川家康の命により防火の神様として祀られた。愛宕神社に上がる急な石段は「出世の石段」と呼ばれている。愛宕神社がある愛宕山は標高25.7メートルあり、出世の石段を登り切った右手には、山の証しである三角点がある。天然の山としては23区内で一番の高さである。

○ 青松寺

高輪の泉岳寺、台東区橋場の総泉寺と並ぶ曹洞宗の「江戸三箇寺」の一つ。境内にはインドネシアの初代大統領であるスカルノから贈られた大きな石碑がある。石碑には、「市来龍夫君と吉住留五郎君へ 独立は一民族のものならず 全人類のものなり 一九五八年二月十五日 東京にて スカルノ」とあり、第二次大戦敗戦後もインドネシアに残留してインドネシアの独立のためにオランダと戦った日本兵を讃えている。

○ 増上寺

浄土宗大本山。1393（明德4）年に武蔵国豊島郷貝塚（現在の千代田区平河町・麴町）に開山。1590（天正18）年、徳川家康が関東の地を治めるようになってまもなく、徳川家の菩提寺として増上寺が選ばれた。家康が当時の住職源誓存<sup>げんよ ぞんのう</sup>上人に深く帰依したためと伝えられる。1598年（慶長3）には、現在の芝の地に移転し、江戸城の南西の方角（裏鬼門）の鬼門封じになったとされる。家康は1616（元和2）年に増上寺にて葬儀を行うようにとの遺言を残し、75歳で没した。上野寛永寺と並ぶ徳川将軍家の廟所で、2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂の6名の将軍、和宮（家茂夫人）らが埋葬されている。